

【学校長コラム】 春のはじまり...

春の陽ざしが大げやきをやわらかく包み込み、桜の花が満開になる頃、毎年、新しい学年のスタートがやってきます。

真新しいランドセルを背負い、緊張しながら本校の門をくぐる新入児童。この光景を何度も目にしてきましたが、毎年のことながら胸の奥にふっと懐かしさがこみ上げてきます。

入学式の後、親子で手を取り合いながら記念写真を撮る様子。その姿を見ていると、自分がまだ若手の教師だった頃のことを思い出します。初めて臨んだ入学式。1年生の子どもたちも、同じように大きなランドセルを背負い、緊張した面持ちで教室に入ってきました。あれから数十年...。あの子たちは今、どこでどんな春を迎えているのでしょうか...。たくさんの節目の春を経て、積み重ね、立派に成長したことでしょう。たまには、小学校の入学式を思い出すこともあるでしょう。

教室を回ると、新しい担任の先生の声に耳を澄ませる子どもたちの姿がありました。期待と不安が入り混じるその表情に、かつての自分を重ねることもあります。教師になったばかりのころは、春の教室で子どもたちの前で話すことさえ緊張したものです。校舎の窓を開けると、外から春風が吹き込み、遠くでウグイスの声が聞こえてきます。何十年たっても、毎年、学校には変わらない春が訪れます。その節目を経て、子どもたちは毎年一回りずつ、必ず成長していきます。

やがて桜吹雪が舞い散ると、子どもたちの笑顔とともに、学校もすっかり春から初夏に向かっていくでしょう。それとともに、子どもたちも育っていくでしょう。

新しい季節、新しい子どもたち、新しい物語。たくさんの希望を抱えて春がはじまります。

